



りわれ患難とうれひとわわへりその時われエホバの名をよべりエホバは願へりわが靈魂をすくひ  
 たまへどエホバの恩恵ゆたかにして公義ましませりわれらの神にわれみ深しエホバの恩かなる  
 ものを護りたまふわれ卑くせられしエホバ我をすくひたまへりわが靈魂よなんぢの本安あかへれ  
 エホバの豊かになんぢを待ひたまへばなり汝にわがたましを死よりわが目をなみだよりわが足を  
 質勝よりたすけいだしたまひきわれに活るもの國おてエホバの前おゆめんわれ大なるやゆりど  
 いひくもなほ信じたりにわれ懼てしどきに云くすべての人のいづれなりと我いにかおしてろの  
 賜へるもの恩恵をエホバおわびくいなやわれ救のさかすきをせりてエホバの名をよびまつらむ  
 我すべての民のまへてエホバおわが誓をつくのさんエホバの聖徒の死にちのみまへて貴とし  
 エホバよ誠におわれいなちの僕ありわれいかなちの婢女の子おして汝のまもべなりあんなちわか  
 ときたまへりわれ感謝をうかへものとして汝にばくげんわれエホバの名をよべん我すべての民の  
 まへにてエホバおわがちかひを償はんエホバよ汝のあかしてエホバのいへの大庭のあかして此を  
 つくのふべしエホバを讀まつれ

第百十七篇

「もろくの國よあんなちらエホバを讀まつれ」もろくの民よあんなちらエホバを稱へまつれ  
 らに賜ふ所の憐憫はおほいありエホバの眞實はどこしに絶るごときかエホバをはめまつれ

「エホバに感謝せよエホバの恩恵よかくの憐憫とこしに絶るごときか」  
 エラエルに奉ひよべし」

ル 耶六十六卷一節  
 二卷九十五卷八節  
 百十卷七節  
 百十一卷十節  
 百十二卷九節  
 百十三卷十節  
 百十四卷九節  
 百十五卷九節  
 百十六卷十節  
 百十七卷十節  
 百十八卷十節  
 百十九卷十節  
 百二十卷十節  
 百二十一卷十節  
 百二十二卷十節  
 百二十三卷十節  
 百二十四卷十節  
 百二十五卷十節  
 百二十六卷十節  
 百二十七卷十節  
 百二十八卷十節  
 百二十九卷十節  
 百三十卷十節  
 百三十一卷十節  
 百三十二卷十節  
 百三十三卷十節  
 百三十四卷十節  
 百三十五卷十節  
 百三十六卷十節  
 百三十七卷十節  
 百三十八卷十節  
 百三十九卷十節  
 百四十卷十節  
 百四十一卷十節  
 百四十二卷十節  
 百四十三卷十節  
 百四十四卷十節  
 百四十五卷十節  
 百四十六卷十節  
 百四十七卷十節  
 百四十八卷十節  
 百四十九卷十節  
 百五十卷十節

ろの憐憫はどこしに絶るごときかエホバの家のい言ふはし「ろのおはれみり永遠に絶るご  
 ときとエホバを畏るもの率ひふべし」ろの憐憫はどこしに絶るごときかわれ患難のあ  
 かよりエホバをよべエホバをたへて我をひらき處におきたまへりエホバお方にのませわれに  
 うれあし人われに何をなしてんやエホバわれを助くるものごときか我がたに坐すこの故にわれ  
 を憎むものにつきての願望をわれ見ることとをえんエホバに依頼むる民にならるも勝りてよしエ  
 ホバによりたのむらもろくの僕にたまよるよりも勝りてよし「もろくの國にわれを圍めりわれエホ  
 バの名によりて彼等をばらばさんかまらに我をかくり我をかくり我をかくりエホバの名によりて彼等をばら  
 ばさんかまらに峰のごとき我をかくりかまらに罪の火のごとき消たれわれエホバの名をよめて  
 かれら滅さん汝われを倒さんとしていたく刺つれエホバわれを助けたまへりエホバわれが力わ  
 かな歌にしてわが歌となりたまへり歡喜とすくよとの聲いたましきもの幕屋ありエホバのみぎの  
 手にひさましき動作をなしたまふエホバのみぎの手たかくあがりエホバの右の手ひさましき動作  
 をなしたまふわれ死ることなからん有てエホバの事跡をいひあたまさんエホバにたかく我をこらし  
 たまひしかど死おし付したまはせりきわがたぬ義の門をひらけ我々のうちにいでてエホバに感謝せん  
 子このエホバの門ありたゞしきものいの内においべしわれなんぢを感謝せんなんぢが我をたへて  
 わが救とありたまへばなり工師のすてたる石のすみの宣石とされりこれエホバの成たてたる事おし  
 てわれらの目にあやとせする所なりこれエホバの設けたまへる日本なりわれらこの日本よるごとき  
 のしまんエホバよねがたてりわれらをなすくひたまへエホバよねがたてり我儕をいま樂としめたま

第百十八篇

自三至二十五節

千九

ハ 詩百八卷十節  
 百九卷十節  
 百十卷十節  
 百十一卷十節  
 百十二卷十節  
 百十三卷十節  
 百十四卷十節  
 百十五卷十節  
 百十六卷十節  
 百十七卷十節  
 百十八卷十節  
 百十九卷十節  
 百二十卷十節  
 百二十一卷十節  
 百二十二卷十節  
 百二十三卷十節  
 百二十四卷十節  
 百二十五卷十節  
 百二十六卷十節  
 百二十七卷十節  
 百二十八卷十節  
 百二十九卷十節  
 百三十卷十節  
 百三十一卷十節  
 百三十二卷十節  
 百三十三卷十節  
 百三十四卷十節  
 百三十五卷十節  
 百三十六卷十節  
 百三十七卷十節  
 百三十八卷十節  
 百三十九卷十節  
 百四十卷十節  
 百四十一卷十節  
 百四十二卷十節  
 百四十三卷十節  
 百四十四卷十節  
 百四十五卷十節  
 百四十六卷十節  
 百四十七卷十節  
 百四十八卷十節  
 百四十九卷十節  
 百五十卷十節





ヨ一テ

皆さんの手いれを遣りわれを形つくまひ、ねはく、智慧をわたして我に、あなたの誠命をまかざし  
 めたまへ、あなたが長るるもの我をみて喜ばな、おし聖言によりて望をいだきたれ、ばなり、エホバよ  
 我のあなたの審判のたましく、又あなた、が眞實をもて我をくらしめたまひしを知る、ねがて、この汝のなほ  
 べに宣ひたる聖言に、また、わたが、ひて、あなた、の仁義を、わが、安慮と、なしたまへ、あなたの憐憫を、おしに、臨せたま  
 へば、ら、われ、生ん、あなた、の法、い、わ、が、樂める、と、ころ、なり、高ぶる、もの、に、恥を、かう、ら、せ、たま、へ、加、れ、ら  
 の、虚偽、をも、て、我、を、く、つ、べ、した、れ、な、なり、され、必、我、な、ん、ち、の、訓諭、を、ふ、か、く、あ、も、は、ん、汝、を、か、ち、る、る、者、と  
 なる、か、の、虚偽、を、も、て、我、を、か、ち、る、と、め、たま、へ、わ、が、こ、ろ、を、全、く、し、て、汝、の、あ、き、さ、を、守、ら、し、め、た、ま、
 へ、ば、ら、れ、われ、恥を、かう、ら、せ、ら、し、

カフ

わが靈魂、あなたの救を、また、わたが、た、え、の、む、を、か、り、なり、然、る、れ、お、れ、亦、は、聖言、により、て、望、を、い、だ、く、あなた、
 何の、とき、我、を、な、ぐ、さ、し、む、る、や、と、い、ひ、つ、し、我、み、と、ど、な、を、慕、ふ、に、よ、り、て、眼、を、と、ら、ふ、われ、煙、の、あ、か、の、草、叢、の、
 と、ど、く、か、り、ぬ、れ、ど、も、倘、か、ん、ち、の、律法、を、わ、す、れ、ず、汝、の、な、も、の、日、い、幾、何、あ、り、や、汝、い、づ、れ、の、と、き、我、を、を、
 じ、る、もの、に、審判、を、か、て、あ、ひ、た、ま、や、た、か、ぶ、る、者、れ、れ、を、害、は、な、ど、て、剛、を、ほ、れ、り、か、れ、ら、ん、か、ん、ち、の、法、の、
 法、た、が、と、す、あなた、の、誠命、のみ、高、眞實、なり、か、れ、ら、の、虚偽、をも、て、我、を、せ、じ、ぬ、が、は、く、ん、我、を、た、す、け、た、ま、へ  
 か、れ、ら、の、地、に、て、ほ、ん、ご、我、を、ほ、ろ、ぼ、せ、り、さ、し、ご、我、の、あなた、の、訓諭、を、す、て、ざ、り、き、願、く、ん、あなた、の、仁、
 慈、に、た、が、ひ、て、我、を、い、か、し、た、ま、へ、然、ら、ば、わ、を、御、口、よ、り、い、づ、る、詭、詞、を、ま、も、ら、ん、

ラメラ

エホバよ、みと、ご、を、り、天、に、て、ご、と、し、へ、に、定、ま、り、あなた、の、眞實、の、よ、ん、ご、世、に、あ、ら、ん、ご、あなた、の、地、を、か、た、く  
 立、た、ま、へ、地、の、ぬ、に、あ、り、これ、ら、れ、も、の、い、か、ん、ち、の、命、令、に、よ、り、た、が、ひ、恒、に、あ、り、今、日、お、い、た、る、萬、の、も  
 の、の、皆、あなた、の、僕、な、ん、ご、あ、り、あなた、の、法、わ、が、た、の、と、み、と、な、ら、ざ、り、し、な、ら、ば、我、の、つ、の、ひ、患、難、の、う、ち、に、滅  
 び、た、る、な、ら、ん、われ、恒、に、あなた、の、訓諭、を、わ、す、れ、ず、汝、を、も、て、我、を、い、か、し、た、ま、へ、ば、なり、我、の、あなた、
 の、有、り、ぬ、が、は、く、ん、我、を、す、く、ひ、た、ま、へ、わ、き、汝、の、さ、と、し、を、求、め、り、た、り、惡、き、もの、の、我、を、ほ、ろ、ぼ、さ、ん、ど、し、て  
 毀、ひ、ぬ、わ、き、ら、唯、あなた、の、も、ろ、く、の、詭、詞、を、あ、も、え、ん、我、も、ろ、く、の、純、全、に、限、あ、る、を、み、た、り、され、汝、の  
 い、ま、し、め、り、い、と、廣、し、

メム

わき、あなた、の、法、を、い、つ、く、し、む、ご、い、か、た、か、り、や、か、な、終、日、ご、を、深、く、あ、ら、ん、あなた、の、誠命、の、つ、ぬ  
 に、我、ご、も、に、あ、り、て、我、を、わ、が、仇、に、ま、さ、り、て、慧、か、ら、し、む、我、の、あなた、の、詭、詞、を、ふ、か、く、あ、も、ん、ご、故、わ、が、す  
 べ、て、の、師、に、ま、さ、り、て、智慧、を、ほ、し、我、の、あなた、の、訓諭、を、ま、も、る、が、ゆ、え、に、老、た、る、者、に、ま、さ、り、て、事、を、わ、き、ま、
 る、か、り、われ、聖言、を、ま、も、ら、ん、爲、わ、わ、の、足、を、と、め、て、も、ろ、く、の、わ、き、途、を、か、し、め、ず、な、ん、ご、我、汝、を、し  
 へ、た、ま、ひ、し、に、よ、り、て、我、の、あなた、の、審判、を、は、な、れ、ざ、り、き、み、ご、と、を、は、滋、味、わ、れ、の、時、に、あ、ま、さ、ご、と、い、か、ば、か、り  
 ぞ、や、蜜、の、わ、が、口、に、甘、き、ま、ま、さ、れ、り、我、な、ん、ち、の、訓諭、に、よ、り、て、智慧、を、受、た、り、ご、の、ゆ、え、に、虚偽、の、す、べ、て、の  
 途、を、に、く、む、

|           |   |
|-----------|---|
| ラメラ       | 一 |
| ヨ一テ       | 一 |
| カフ        | 一 |
| メム        | 一 |
| ヌツ        | 一 |
| 第百十九篇     | 一 |
| 自七十三至八十四節 | 一 |
| 千十四       | 一 |

|           |   |
|-----------|---|
| ラメラ       | 一 |
| ヨ一テ       | 一 |
| カフ        | 一 |
| メム        | 一 |
| ヌツ        | 一 |
| 第百十九篇     | 一 |
| 自七十三至八十四節 | 一 |
| 千十四       | 一 |

一 聖九〇世三  
 二 聖九〇世九  
 三 聖九〇世九  
 四 聖九〇世九  
 五 聖九〇世九  
 六 聖九〇世九  
 七 聖九〇世九  
 八 聖九〇世九  
 九 聖九〇世九  
 十 聖九〇世九  
 十一 聖九〇世九  
 十二 聖九〇世九  
 十三 聖九〇世九  
 十四 聖九〇世九  
 十五 聖九〇世九  
 十六 聖九〇世九  
 十七 聖九〇世九  
 十八 聖九〇世九  
 十九 聖九〇世九  
 二十 聖九〇世九  
 二十一 聖九〇世九  
 二十二 聖九〇世九  
 二十三 聖九〇世九  
 二十四 聖九〇世九  
 二十五 聖九〇世九  
 二十六 聖九〇世九  
 二十七 聖九〇世九  
 二十八 聖九〇世九  
 二十九 聖九〇世九  
 三十 聖九〇世九  
 三十一 聖九〇世九  
 三十二 聖九〇世九  
 三十三 聖九〇世九  
 三十四 聖九〇世九  
 三十五 聖九〇世九  
 三十六 聖九〇世九  
 三十七 聖九〇世九  
 三十八 聖九〇世九  
 三十九 聖九〇世九  
 四十 聖九〇世九  
 四十一 聖九〇世九  
 四十二 聖九〇世九  
 四十三 聖九〇世九  
 四十四 聖九〇世九  
 四十五 聖九〇世九  
 四十六 聖九〇世九  
 四十七 聖九〇世九  
 四十八 聖九〇世九  
 四十九 聖九〇世九  
 五十 聖九〇世九  
 五十一 聖九〇世九  
 五十二 聖九〇世九  
 五十三 聖九〇世九  
 五十四 聖九〇世九  
 五十五 聖九〇世九  
 五十六 聖九〇世九  
 五十七 聖九〇世九  
 五十八 聖九〇世九  
 五十九 聖九〇世九  
 六十 聖九〇世九  
 六十一 聖九〇世九  
 六十二 聖九〇世九  
 六十三 聖九〇世九  
 六十四 聖九〇世九  
 六十五 聖九〇世九  
 六十六 聖九〇世九  
 六十七 聖九〇世九  
 六十八 聖九〇世九  
 六十九 聖九〇世九  
 七十 聖九〇世九  
 七十一 聖九〇世九  
 七十二 聖九〇世九  
 七十三 聖九〇世九  
 七十四 聖九〇世九  
 七十五 聖九〇世九  
 七十六 聖九〇世九  
 七十七 聖九〇世九  
 七十八 聖九〇世九  
 七十九 聖九〇世九  
 八十 聖九〇世九  
 八十一 聖九〇世九  
 八十二 聖九〇世九  
 八十三 聖九〇世九  
 八十四 聖九〇世九  
 八十五 聖九〇世九  
 八十六 聖九〇世九  
 八十七 聖九〇世九  
 八十八 聖九〇世九  
 八十九 聖九〇世九  
 九十 聖九〇世九  
 九十一 聖九〇世九  
 九十二 聖九〇世九  
 九十三 聖九〇世九  
 九十四 聖九〇世九  
 九十五 聖九〇世九  
 九十六 聖九〇世九  
 九十七 聖九〇世九  
 九十八 聖九〇世九  
 九十九 聖九〇世九  
 一百 聖九〇世九

ちの義にこそしへの義あり汝のりい真理あり われ患難と憂をかよれども汝のいせしめハわが喜  
 此故に余んちの僕にこれ愛す 我の微なるものて人におかざるれども汝のいせしめを忘れず 余  
 主へり わが敵余んちの聖言をわすれたるをもてわが熱心われをほつばせり 余んちの聖言のいせしめ  
 エホバよなんちり義く余んちの審判のあはれし 汝たふしきと此上なき眞實をもてこの證詞を命じた  
 〇ツア一  
 人余んちの法をまらざるによりてわが眼のなみだ河のごとくに流る  
 らわれ訓諭をまららん ねがはくはり聖顔を余んちの僕のうちにてらして汝のおきてを我ををしへたふ  
 をどくのへもろくの邪曲をわれに主たらしめたまふかれ われを人のえへより願ひたまへ  
 くの聖名を愛するものに恒になしたまふごとく身をかへして我をおはれみたまへ 聖言をもてわが非履  
 るものをさだからしむ 我余んちの誠命をたふが故にわが口をひろくわけて喘ぎもどめたり ねがは  
 汝のわかしハ妙なり かくるが故にわが靈魂これをもる 聖言うちひらくれを光をはもて思かな  
 〇二  
 切のごとくを正とおもふ 我すべてのいつはりの流をわくわ  
 金よりもさじりなき金よりもさじりて汝のいせしめを愛す この故にもろくのいせしめに係る余んちの一  
 ちらしめたまへ 彼等余んちの法をすてたり今ハエホバのはたらきたまふべき時なり この故にわれ  
 しらひ我に余んちの律法をしへたまへ 我余んちの僕なり われに智慧をおたへて余んちの證詞を  
 ちのたしき聖言を法たふによりておどろふ ねがはくはり余んちの憐れおたまがひて余んちの僕をお

一 聖九〇世三  
 二 聖九〇世九  
 三 聖九〇世九  
 四 聖九〇世九  
 五 聖九〇世九  
 六 聖九〇世九  
 七 聖九〇世九  
 八 聖九〇世九  
 九 聖九〇世九  
 十 聖九〇世九  
 十一 聖九〇世九  
 十二 聖九〇世九  
 十三 聖九〇世九  
 十四 聖九〇世九  
 十五 聖九〇世九  
 十六 聖九〇世九  
 十七 聖九〇世九  
 十八 聖九〇世九  
 十九 聖九〇世九  
 二十 聖九〇世九  
 二十一 聖九〇世九  
 二十二 聖九〇世九  
 二十三 聖九〇世九  
 二十四 聖九〇世九  
 二十五 聖九〇世九  
 二十六 聖九〇世九  
 二十七 聖九〇世九  
 二十八 聖九〇世九  
 二十九 聖九〇世九  
 三十 聖九〇世九  
 三十一 聖九〇世九  
 三十二 聖九〇世九  
 三十三 聖九〇世九  
 三十四 聖九〇世九  
 三十五 聖九〇世九  
 三十六 聖九〇世九  
 三十七 聖九〇世九  
 三十八 聖九〇世九  
 三十九 聖九〇世九  
 四十 聖九〇世九  
 四十一 聖九〇世九  
 四十二 聖九〇世九  
 四十三 聖九〇世九  
 四十四 聖九〇世九  
 四十五 聖九〇世九  
 四十六 聖九〇世九  
 四十七 聖九〇世九  
 四十八 聖九〇世九  
 四十九 聖九〇世九  
 五十 聖九〇世九  
 五十一 聖九〇世九  
 五十二 聖九〇世九  
 五十三 聖九〇世九  
 五十四 聖九〇世九  
 五十五 聖九〇世九  
 五十六 聖九〇世九  
 五十七 聖九〇世九  
 五十八 聖九〇世九  
 五十九 聖九〇世九  
 六十 聖九〇世九  
 六十一 聖九〇世九  
 六十二 聖九〇世九  
 六十三 聖九〇世九  
 六十四 聖九〇世九  
 六十五 聖九〇世九  
 六十六 聖九〇世九  
 六十七 聖九〇世九  
 六十八 聖九〇世九  
 六十九 聖九〇世九  
 七十 聖九〇世九  
 七十一 聖九〇世九  
 七十二 聖九〇世九  
 七十三 聖九〇世九  
 七十四 聖九〇世九  
 七十五 聖九〇世九  
 七十六 聖九〇世九  
 七十七 聖九〇世九  
 七十八 聖九〇世九  
 七十九 聖九〇世九  
 八十 聖九〇世九  
 八十一 聖九〇世九  
 八十二 聖九〇世九  
 八十三 聖九〇世九  
 八十四 聖九〇世九  
 八十五 聖九〇世九  
 八十六 聖九〇世九  
 八十七 聖九〇世九  
 八十八 聖九〇世九  
 八十九 聖九〇世九  
 九十 聖九〇世九  
 九十一 聖九〇世九  
 九十二 聖九〇世九  
 九十三 聖九〇世九  
 九十四 聖九〇世九  
 九十五 聖九〇世九  
 九十六 聖九〇世九  
 九十七 聖九〇世九  
 九十八 聖九〇世九  
 九十九 聖九〇世九  
 一百 聖九〇世九

りて福社をえしめたまへ 高ぶるもの我をえんたぐるを容したまふなかれ わが眼余んちの救とあ  
 〇アイ一  
 われ審判と公義をわけてなふ 我をすてく虐ぐるものに委ねたまふなかれ 汝のえもの中保とあ  
 〇アイ二  
 うる  
 主よこの故にわれ汝のわかしを愛す わが肉體余んちを懼るくによりてふるふ 我余んちの審判を  
 主へり かれらの欺詐のむなしくればなり 余んちの地のすべての悪きものを渣滓のごとく除きさたり  
 るべし われ恒に余んちの律法にこそろをうごらん すべて律法よりまよひうるものを汝からしめた  
 をさして生をせしめたまへ わが望おつきて耶なからしめたまへ われを支へたまへ さらばわれ受けか  
 て望をいなく 悪きをなすものよ 我をばなれされ われが神のいせしめを守らん 聖言にえたるが  
 〇サム一  
 われ二心のものをしてくみ汝のあきてを愛しむ 余んちがわが置るべき所わが盾なり われ聖言により  
 心をよろこせしむ われ汝のあきてを終までこそしに守らんぞとて之にこそろを領けたり  
 主よ迷ひいでざりき われ汝のあかし 證詞をこそしにわが副業とせり これらの證詞のわが  
 危険をわすさばれ 我余んちの法をわすれず わしき者わがために罾をまうけたり さればわれ汝の  
 主よ ねらはくはり誠意よりするわが口の戯物をうけて余んちの審判をせしめたまへ わが靈魂のつねに  
 かひかたせり われ甚いたく苦しめり エホバよ ねらはくはり聖言にえたるがひて我をいかしたまへ  
 〇アイ二